

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人 大 水 文 隆
〒852-8113 長崎市上野町 10-34
カトリックセンター内
TEL095(843)3869 FAX095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤 木 博 英 社
〒850-0852 長崎市万屋町 5-13
TEL095(821)2146 FAX095(821)2148



教皇さまの
意向のために祈りましょう

- ①一般：親と教師
- ②宣教：アフリカの教会
- ③日本：平和の連帯

ユスト高山右近という生き方 今、降りていく人へ

日本カトリック司教協議会
列聖列福特別委員会 古巢 馨

わたしも受けたものです

あなたがカトリック信者ならば、せめてこれくらいは知っておいてほしい。それを知らなくても今の世界で、何とか生きていくことはできるかもしれない。しかし、知っているのと知らないのでは、日々の暮らしを感じる豊かなさにおいて、計り知れない違いがある。

「ワレラノムネ アナタノムネ オナジ」浦上のキリシタンがブチジャン神父に告げた一言は、250年間、信仰と希望を刷り込んで生きた人たちの豊かさとかましましに満ちている。親から子へ、子から孫へ「信仰者として知っておくべきこと」を受け渡し生きてきた人たち。ここに長崎の教会の原風景を見る。

教会は記念することによって誕生し、育まれ、託された役割を担ってきた。信徒発見50周年のとき、いま献堂100周年を迎えている多くの教会は建立された。信徒発見100周年のとき、なぜかユスト高山右近の没後350年を共に記念し、この時から日本の

教会は右近の列福運動を再び開始している。そして2年後、信徒発見150年を迎える。時を同じくして右近の没後400年に列福承認を待つ。今回、何をどのように記念するのか。かつて「オナジ」と公言した長崎の教会の今が問われている。

大切な記念を準備するかのよう差し出された「信仰年」。目的は2つ。教会がはじめて受け継いだ信仰の遺産を確認すること。洗礼の恵みを受け止め、喜びと情熱を取り戻すこと。信仰年は、「カトリック信者ならば、せめてこれくらいは知っておいてほしい」という教会の親心である。

1615年2月3日、最後の追放地マニラで右近は静かに使命を終えた。死に水をとったペドロ・モレホン、すぐに列福申請のための記録をまとめている。あの時から、教会はユスト高山右近の信仰を知っておくべきことの一つとして伝えてきた。大切なこととして、わたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです(1コリント15・3)

高山右近という生き方

1553年摂津国は高山に生まれ、1615年フィリピンはマニラで閉じられた63年の人生。その後半の29年は追放の身だった。戦乱の世に身分ある家柄の子として生まれ、20歳で大名となり、下克上の熾烈な競争社会の中、もって生まれた才能で頭角を現し、時の権力者織田信長・豊臣秀吉・徳川家康が目をとめる存在にまで登りつめていく。成功者と目された若者の洋々たる前途は開けていた。

しかし、右近は人々の期待とはまったく違った生き方を見せていくことになる。伝えられたことを生きた信仰は、右近に「降りていく生き方」を選ばせた。34歳で大名職をはく奪、改易追放。世の力におもねない人、心細く生きる人を大事にし、礼を失せず清さを求める人。そうして残ったのは、「十字架の死にいたるまで従順に生きる」お方を追求める人の姿だった。こうして、いっばん低いところからいのちの方向を示す右近は、新たな輝きを放つことになる。神は、過酷な競争社会の中で信仰のために「負け組み」に身を落とした右近を通して、ご自分の福音を差し出した。競い合うことの先に確かな幸せを求める現代社会——今、教会が右近を記念する理由

ヨハネ・パウロ2世とヨハネ23世 列聖へ



問。25日に浦上教会で行われた叙階式では、長崎教区の岩村知彦師、島山邦夫師、古巢馨師が司祭叙階の恵みをいただいた。

教皇フランシスコは7月5日、福者ヨハネ・パウロ2世(写真)と福者ヨハネ23世を列聖する「教会の窓を現代世界に開く」第2教令を承認した。教皇ヨハネ・パウロ2世(在位1978〜2005年)は、1981年2月23日から26日にかけて日本を訪れた。列聖式の日程は発表されていないが、今年中に行われるとみられる。

教区司祭黙想会

6月4日から7日まで、長崎大司教館において教区司祭黙想会が行われた。



6月4日から7日まで、長崎大司教館において教区司祭黙想会が行われた。説教師を務めたイエズス会の塩谷恵策師は、成果の見えない苦勞は司祭を失望に落としかねないと教える「司祭の役割に関する教令」に触れ、「成果の見える仕事は小さい仕事にすぎず、神の大きな計画の中で喜んで働きなさい」という恩師の言葉や、「水を笥に流してももれるが、その水は神の貯水池に溜る」という言葉を通して、教区シノドスや種々の職務を前に苦勞する司祭を力づけた。最終日は、高見三明大司教による講話と亡くなった教区司祭たちのためのミサがさげられた。大司教は、司祭は裁く管理者ではなく牧者として生きるようにと説き、必要な助けを共に祈った。

キリストの3つの神秘の中で

右近はなぜ、あえて「降りていく生き方」を選んだのか。高山右近という生き方には何が宿っているのか。キリストの3つの神秘が右近の人生を包んでいたことがわかる。神が人の間に宿る「出会いの神秘」。み旨を求め続ける「苦しみの神秘」。そして、すべてがついた闇と沈黙から生まれる「復活の神秘」。

1 出会いの神秘

わたしが今大切にしている信仰は、誰を通してきたのだろうか。父タリオ高山飛驒守の受洗のあと、右近が家族と一緒に洗礼を受けたのは10歳の時。最初の日本人修道士ロレンソ・了齋から出会った。ロレンソは山口でザビエルと出会った。ザビエルを通してイエスの福音を受けた。ザビエルの信仰がロレンソに、ロレンソの信仰がやがて「日本の教会の柱石」「伴天連の大旦那」と呼ばれる高山右近に宿っていくのである。

2 苦しみの神秘

右近の人生には、3つの大きな試練の跡が刻まれている。和田惟長事件と荒木村重事件、そして秀吉の伴天連追放令。1573年、20歳のときに起きた和田惟長との保身のための一騎打ち。惟長は死亡、深手を負った右近も命の瀬戸際をさまよった。このとき右近は、「神のことを深く想い、驚くほど

の成長をとげた」とルイス・フロイスは記している。成長の陰には、そのとき受けた福音降りてきて、へりくだった神との出会いがあったといわれる。2番目の試練は、78年、妹と長男を人質として差し出す中、信長に仕えるのか、それとも直接の上司荒木村重に仕えるのかという板挟みの事件だった。力関係の上に成り立つ社会の仕組みからくる苦しみ。右近はこの苦しみの中で、祈りと信頼の道をたどり始める。右近にとって祈りとは「問いかけること」「静かに、聞くこと」「決断すること」だった。このできごと以降、右近の人生は深い祈りに貫かれていく。

3 復活の神秘

3番目の試練は、78年7月24日、秀吉によって出された伴天連追放令である。秀吉の狙いは、宣教師よりもむしろ右近の棄教だった。人間にかかわることは変えることができるが、神のことは、またその教えにかかわることは、一点たりとも変えることはできません。ぶれることのない右近。説得のため、2度目に秀吉から遣わされたのは茶の湯の師匠・千利休だった。利休は、右近のおもねることのない凛とした態度を褒めたという。捨ててこそ出会える世界、解き放たれた本当の自由、それが利休の茶が目指す心だった。キリストに出会った右近はすでに利休の世界を越え、神が用意した道をたどっていた。こうして追放と流浪の「降りていく生き方」が始まる。その姿は、当時の大名や武人たちにとって、敗北者ではなく異質な輝きを放って見えた。右近の盟友・前田利家の言葉が残っている。

捨てたとき、はじめて与えられるものがある。失ったとき、はじめて見出すものがある。十字架の死に至るまで降りられた神に従う人は、その復活の恵みにもあずかる。弟子たちの派遣は、イエスの十字架のあと復活の新たな息吹の中で行われる。秀吉からの追放、また28年後の家康からの追放を、右近は神からの派遣と受け止めた。右近にとって、追放されるすべての土地は宣教地となった。「右近殿の模範的で質素な生活は、人々を納得させます。右近殿がいるところには、必ず教会が生まれています」(ルイス・フロイス)。語ることと生きていることが一つになったとき、人は正直にうなずき、近づいてくる。降りていく人の先には教会共同体が生まれていく。これが復活の神秘にあずかった人のしるしである。

これまで皆様からのご支援、現大槌ベースは利用できなくなりました。現在、桜木町住宅地の一軒家を借用契約し、改修工事は長崎市内の木工5名により進行中です。ボランティア宿泊数は20名程度と、また仙台教区の要請により、毎月の仙台教区サポート会議に出席しながら、今後も被災地と関わってまいります。

被災者に継続的支援を

教区本部事務局次長 古木 真理一

りますが、町民共同住宅完成は2年後。窮屈な仮設生活は続きます。長崎教会管区5教区のベースの取り組みはこれまで通り続けられます。――仮設住民の相互互助促進支

援。町民全体が盛り上がる年間諸行事の協力。町民と共により新しい街づくり会議と実現に向けた取り組み。大槌町青年連絡協議会活動支援。地元NPOボランティアア団体共有会との連携。大槌町学童、こどもセンター。町興しに取り組む農業、漁業、林業、商業支援など。

多くのボランティアア団体は撤退の中、カリタス大槌ベースへの期待はますます大きくなっています。まだまだ皆様の支援を必要としています。今後も被災者の



大槌ベース前での花植作業



信仰年連載企画
長崎はなぜ長崎を棄てるのか ⑩

初代教会と長崎の教会

日本カトリック神学院 湯浅 俊治

先祖が残してくれた尊い遺産

「おい、学校が終わったら遊びようや」「すまん、今日は教会に行かんばだめとさね」――小学生時分の会話です。今でも長崎の教会ではどこでもそうなのでしょうが、浦上教会の『けいこ』は平日に、しかも週に2回行われていました。「学校が終わったら友だちと遊びたけれど、教会の『けいこ』に行かんば親から怒られる」、自分にとってはそのジレンマを抱えながらの小学生時代の要理教育でした。親は親で「教会に行け」の一点張り、私は子どもながらに大きな犠牲を払って教会に行くという思いが強かったようです。

でも今考えてみると、親には「先祖の信仰を受け継いできたプライド」があったのでしょう。何せ、浦上の信者は四番崩れで日本の各地に流されて行きました。しかし、流された者たちもその末裔も、悲劇としか思えないこの出来事をキリストの受難にあずかる尊い体験として大切にしてきました。彼らにとって、それは決して忘れてはいけぬもの、失ってはいけないものであつて、子々孫々に宝として伝えなければならぬものです。そう考えると、子に向かつて一方的に放たれる「教会に行け」という言葉には、子に一番よいものを与えたいと願う親の思いが込められているのかもしれない。

こうして思いがけなく教会共同体を襲った一つの出来事、それが信仰に生きる道を私たちの営みの中に整えてきました。そして信徒の心の中に、いかなる困難にも負けない強靱さを培ってくれました。でも最近の長崎では、尊い遺産を継承する私たちのすばらしい特性が影を潜めているように思えます。今日の長崎の教会は、現代社会の中で信仰を生きることができなくなったのでしょいか。私たちの方が、先祖の思いとは裏腹に、本来ある教会の姿を変えてしまったのでしょいか。いま一度、私たちは教会と教会に生きる信徒であることを見つめ直す必要があるのかもしれない。

最初のキリスト者

1 初代教会共同体の基本精神

使徒言行録には、最初に「キリスト者」と呼ばれた人たちのことが描かれています(11・19・26)。キリストの死後使徒たちの力強い証しによって、キリストを信じる者たちの共同体がエルサレムに形成されました。もちろん、この共同体が最初から「キリスト者」と呼ばれていたわけではありませぬ。しかし、神の家族である共同体がいかに理想的な「集い」であつたか、使徒言行録の記述から分かります。「信者たちは皆一つになつて、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた」(2・43・47)。当時、作られたばかりのこの共同体は、ユダヤ世界の中にあつては少数派で、しかも周囲からは危険視されていきました。ともすれば、崩壊する危うさをもはらんでいた人々の集いでもありました。だからこそ、信じる者たちは互いの関係に強固な絆を作り、信仰の面で「祈り合う」ことはもちろんのこと、私的生活の面でも互いに「共有し、分かち合う」、いわゆる何事においても助け合う「相互扶助」を旨としていたのです。

今日においても、長崎の教会の共同体精神の根底にはこうした精神を受け継ぎ、お互いに目を向けたわり合う温かさ、それが大きく根を張っているはずだ。現に、東日本大震災の折、少し遠い東北の地に長崎の信徒たちも目を向け、痛みを分かち合おうとしました。「元気か? 大丈夫か? 困ったことはないか?……」この思いをいつも皆で共有できれば、教会は何と

豊かな温もりに包まれることでしょう。

2 アンテオキアの「キリスト者」

意外なことに、キリストを信じる者たちが「キリスト者」と呼ばれたのは、シリアのアンテオキアにおいてでした(11・26)。今ではこの町はトルコ共和国の一部ですが、もともと今日でも紛争の絶えないシリアに属していました。捕囚後、ユダヤ人はパレスチナから追われ、近隣の他国に流れて、各地にユダヤ人の共同体を形成していったのです。そして彼らは、自分たちが神の民であることを心に留めるために会堂を作つて礼拝し、律法をかたくななまでに順守しながら生活していました。アンテオキアは、キリストの時代、大きなユダヤ人共同体が存在する大都市の一つでした。

そういう中、使徒言行録によれば、ステファノの殉教をきっかけに、エルサレムのキリストを信じる者たちの共同体(エルサレム大教会)に対する迫害が惹起し、彼らのうち幾人かが難を逃れようとアンテオキアに向かつています。驚くべきことに、この迫害によって、キリストの福音がそこにいたユダヤ人のみならず異邦人たちにも伝えられることになったのです(11・19・20)。

聖書には書かれていませんが、恐らく、アンテオキアに福音をもたらした者たちが大きな説得力のあるメッセージをもって宣

教したからこそ、キリストを知らないユダヤ人も異邦人をもキリストを信じる共同体の仲間に加えることができたのでしょ。エルサレムの信徒は、キリストを深く理解し、受け入れ、信じていたがゆえに、アンテオキアにおいて彼らにキリストを信じる道を開くことができたのだと考えられます。

そしてもう一つ、「キリスト者」と呼ばれる宗教的「団」が形作られたということは、いかにそのメンバーが多かつたか、つまり多くの者たちがキリストの弟子に加えられたかということ、物を語っています。また、この「キリスト者」という呼称は、キリストを信じることを良しとしなかつた者たちが彼らに対して付けた一種の「あだ名」です。大抵、あだ名は軽蔑的で差別的な意味合いを含みながら付けられるものです。もしそうなら、新たに「団のメンバーになった者たちは、外的な圧迫や偏見を受けることを厭わず、むしろそれを喜んで身に受けていった人たちではなかつたのでしょうか。

長崎の教会を振り返る

では今日の長崎の教会は、初めて「キリスト者」と呼ばれた者たちにあつためて何を学ぶことができるのでしょうか

である。ミサでは、信者がでないにもかかわらず私有地に殉教碑建立を許可し手入れをしている小干浦の西村家の人々や、横瀬浦の恩人たちの、宗教

本河内のルルド祭

聖コルベゆかりの巡礼地

天候に恵まれた5月の最終日曜日26日、本河内教会(柳本繁春主任神父)とコンベンツアル聖フランシスコ修道会聖母の騎士修道院はルルド祭を行った。彦山の麓にあるこのルルドは、聖コルベによって1932(昭和7)年5月に開かれたもの。

10時半、第1玄義のレ

か。私が思うに、ひとつは逆境を順境に導くきっかけとすることです。かつて長崎の教会も、大きな迫害を通して共同体を強固にし、そこに生きる者たちが信仰を培ってきました。確かに現代社会には、信仰を生きながら困難にしている何ものか、以前の迫害とは異なる別の迫害が渦巻いているように思えます。そこで諦めることから始めるのではなく、最初の共同体と同様に困難な状況をむしろチャンスとして生かさないものか積極的に考えてみてはどうでしょうか。そうした前向きな姿勢が、閉塞感のある教会に一筋の希望の光を輝かせることになるかもしれない。

さらに、私たちが教会を離れた信徒やキリストを知らない人々たちを納得させることのできる内的力を持つていかということ。たぶん私たちがいかにキリストとその教会への理解を深めているのかということが鍵になると思います。そういう意味では、私たちの信仰の再学習あるいは再体験が求められることでしょう。

私たちは私たちに、先祖が伝えた教会を見直し、まことの筋金入りの教会の姿を取り戻していきたいものです。

を越えた協力に感謝しながら祈りをささげた。参加者は、先人たちが証した揺るがぬ信仰を胸に、感動のうちに帰路に就いた。

リーフ前から口ザリオが始まり、各玄義で献香と、婦人会による献花が行われた。マリアを賛美するかのよう

に、「アヴェ・マリアの祈り」に合わせさえずる小鳥に囲まれた行列には、東京からの巡礼団も加わり、180人余の信徒が参加した。

ミサの中で、瀧憲志師(本河内教会助任)は、お告げとカナの婚宴のマリアの言葉と行いについて



語り、「すべてを心に納めて思い巡らしていた」ことの大切さを説いた。参加者は式典の終わりに、ルルドの水を500mlのボトルにいだいて帰った。故永井隆博士は、原爆による深い傷でまさに臨終が迫っていた時、この水によって癒やされたといわれている。



横瀬浦で記念植樹

黒崎小教区の信仰年の取り組み

横瀬浦、キリシタンの神浦正通の墓がある神浦、福者中浦ジュリアン関連の南風崎、中浦、七釜港、純吉神社を訪ねて聖歌と祈りをささげ、殉教した司祭、修道士、宿主たちの命懸けの崇高な信仰を賛美した。

最初のキリシタン大名となつた大村純忠の受洗地横瀬浦ではミサをささげ、オリーブとからし種の記念植樹をした(写真)。

6月2日、黒崎小教区(大山繁主任神父)は、信仰年の取り組みの一つとして西彼杵半島巡礼を行った。

35人の参加者は行程表と聖歌集を手に、時津町

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町13-1 電話(095)846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話(0957)50-3008

交通誘導警備 常駐警備 イベント警備

(有)小田警備保障

警備員募集!

電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523

長崎市横尾3丁目31-15 代表取締役 パウロ 小田 睦

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子

(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号

会長崎 095-822-8436

FAX 095-822-8488

マイホームの美容と健康に!

(有)山川塗装

有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事

代表取締役 ベトロ 山川 進

佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網

エテルナ・ワコー(株)

代表取締役 ミカエル 溝口 美義
〒858-0926 佐世保市大湊町586
TEL(0956)47-4380

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送
も致します)

水浦運送

シモン 水浦 幹雄

長崎市上野町12-3

TEL(095)49847-7151

844-1420

貨物保険有り
・一般引越
・小荷物
・遠距離
・荒ゴミ捨て
・学生引越
・ピアノ運搬

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00

2012年度決算に関する報告

長崎大司教区

宗教法人カトリック長崎大司教区の2012年度収支決算書が6月25日、教区顧問会で承認された。引き続き教区費の収入は減少傾向にあるものの、国宝（大浦天主堂）保存委員会からの収入が増えたこと、長崎コレジオには経常ではなく奨学金返済金から支出したこともあり、次年度に向けて余裕のある繰越金となった。同日の顧問会において、繰越金のうち5千万円を来る信徒発見150周年記念事業のために確保することが決定した。

長崎大司教区

〔収入の部〕	
科 目	決算額
1. 経常収入の部	480,646,828
教区費	131,637,624
信 徒	116,797,624
司 祭	9,380,000
修道会	5,460,000
特定献金	33,690,686
神学生養成援助費（封筒）	12,269,617
世界広報の日献金	2,540,914
聖ペトロ使徒座への献金	6,447,836
世界難民移住移動者の日献金	2,620,224
世界宣教の日献金	2,570,160
宣教地司祭育成の日献金	2,494,374
児童福祉の日献金	4,747,561
特別献金	30,194,288
寄付金	10,866,320
献金収入（本部関係）	17,792,774
ミサ奉納金(ビナチオ・トリナチオ)	1,320,000
ミサ献金（教区行事）	215,194
諸委員会活動費	6,032,543
(1) 信仰養成部	1,620,809
信仰教育委員会	7
生涯養成委員会	1,290,600
典礼委員会	202
青少年委員会	330,000
(2) 福音化推進部	2,647,100
福音化推進部費	385,600
平和推進委員会	2,261,500
(3) 広報委員会	1,436,763
(4) 教会奉仕者等養成部	63,650
召命促進委員会	63,650
(5) 家庭特別委員会	252,000
(6) 教区本部事務局	12,221
その他	279,091,687
保険金収入	2,395,675
受取利息	9,158
雑収入	19,631,604
小教区拠出金	249,316,543
退職金積立	7,738,707
2. 財務収入の部	113,685,000
固定資産収入	0
受取家賃	0
その他の財務収入	113,685,000
内部貸付金回収	1,000,000
国宝保存財務資金	100,000,000
資金取崩収入	0
雑収入	85,000
その他収入	12,600,000
立替金返済収入	0
3. 前年度繰越金	66,880,249
収入の部合計	661,212,077

〔支出の部〕	
科 目	決算額
1. 経常支出の部	531,954,534
宗教活動費	8,872,880
祭儀費	253,250
特別行事	4,268,390
助成金（小教区）	1,839,888
教区評議会	2,511,352

科 目	決算額
諸委員会活動費	20,995,522
(1) 信仰養成部	6,832,457
信仰教育委員会	1,204,812
生涯養成委員会	3,737,773
青少年委員会	1,563,605
典礼委員会	301,127
信仰養成部費	25,140
(2) 福音化推進部	5,561,982
エキュメニズム・諸宗教委員会	789,436
人権委員会	834,049
福祉委員会	940
平和推進委員会	3,189,116
福音化推進部費	748,441
(3) 教会奉仕者等養成部	915,609
召命促進委員会	915,609
神学生養成委員会	0
教会奉仕者等養成委員会	0
教会奉仕者等養成部費	0
(4) 家庭特別委員会	920,873
(5) 小共同体推進室	84,650
(6) 広報委員会	6,679,951
負担金	23,566,072
中央協議会送金	15,990,042
使徒座送金	6,976,030
心のともしび	600,000
神学生養成費	41,873,758
日本カトリック神学院	23,265,447
大神学生諸経費	608,311
長崎カトリック神学院	18,000,000
長崎コレジオ	0
司祭生涯養成費	7,140,378
黙想研修会	5,702,930
海外留学費	1,437,448
不動産管理費	3,301,708
管理費	26,621
租税公課	3,275,087
人件費	334,244,514
聖職者（本部関係）	29,402,000
聖職者（小教区）	188,780,000
引退司祭	8,290,000
職員（本部関係）	50,509,021
職員（小教区）	57,263,493
福利厚生費	43,234,766
法定福利費（司祭・本部）	28,955,927
法定福利費（小教区）	2,912,870
福利厚生	3,599,347
医療費	3,917,155
医療共済制度	1,425,000
年金（掛け金）	2,424,467
維持管理費	23,001,336
大司教館	14,658,993
センター（管理部門）	8,342,343
事務費	21,531,879
本部事務局	6,077,920
教区管理費	3,348,300
法人事務所	12,105,659
その他の支出	4,191,721
巡礼センター補助金	600,000
非課税事業支出	3,591,721
雑費	0

科 目	決算額
予備費	0
2. 財務支出の部	9,299,461
財務支出	825,284
補助金	0
利子支払（借入金）	825,284
積立金支出	8,474,177
司教活動資金	3,000,000
不動産取得資金	1,210,079
その他支出	50,000
司祭年金	1,941,098
退職金引当金	2,273,000
3. 次年度繰越金	119,958,082
支出の部合計	661,212,077

カトリックセンター事業部門

〔収入の部〕	
科 目	決算額
宿泊売上	29,075,055
会議室売上	2,053,160
カフェ売上	9,850,850
売店売上	431,241
営業雑収入	597,371
雑収入	1,847
受取利息	587
預り金収入	1,518,846
その他の収入	1,649,000
前年度繰越金	8,002,399
収入の部合計	53,180,356

〔支出の部〕	
科 目	決算額
給料および手当	18,251,170
法定福利費	1,149,458
福利厚生費	231,621
食材仕入れ	3,720,998
売店仕入れ	354,269
消耗品費	3,353,222
通信費	403,387
旅費交通費	505,960
水道光熱費	2,923,669
接待交際費	9,075
諸会費	139,000
車輛費	173,718
修繕費	2,969,925
燃料費	1,886,995
保険料	462,820
保健衛生費	915,615
公租公課	3,337,218
リース料	146,076
広告宣伝費	150,890
支払手数料	1,056,206
雑費	1,679,263
什器備品	0
消費税	0
預り金支出	1,510,503
その他の支出	1,966,600
内部借入金返済	0
次年度繰越金	5,882,698
支出の部合計	53,180,356

2012年度決算に関する報告 長崎教区 71 小教区決算集計表

〔収入の部〕

科 目	決算額
1. 経常収入の部	1,115,333,872
献金収入	793,695,872
教会維持費	425,150,340
ミサ献金	120,207,296
ミサ奉納金	178,926,396
祭儀献金	47,687,179
その他の献金	21,724,661
寄付金収入	80,836,679
一般寄付金	51,824,551
指定寄付金	9,253,089
司祭寄付金	6,376,869
修道会寄付金	2,415,000
その他の寄付金	10,967,170
その他の収入	67,130,770
教区補助金収入	1,700,458
受取利息収入	363,910
墓地納骨堂管理費収入	13,033,044
行事収入	5,305,567
非課税事業収入	3,119,509
雑収入	43,608,282
預り金収入	173,670,551
教区費	118,962,734
神学生養成援助費（封筒）	11,266,677
児童福祉の日献金	2,473,287
世界広報の日献金	2,469,034
聖ペトロ使徒座への献金	2,273,597
世界難民移住移動者の日献金	2,512,857
世界宣教の日献金	2,530,415
宣教地司祭育成の日献金	2,403,141
特別献金	1,842,261
預り金	3,118,384
一葉募金	6,867,390
クリスマス募金	4,233,593
カリタスジャパン募金	9,609,168
その他の募金	3,108,013
2. 財務収入の部	312,293,772
内部借入金収入	1,000,000
外部借入金収入	0
特別目的預金取崩収入	61,377,069
境内地拡張費積立金収入	0
境内建物建設増改築積立金収入	78,648,600
土地売却代金収入	0
修理費積立金収入	149,787,461

科 目	決算額
雑収入	21,464,562
重文防災施設工事補助金	16,080
3. 前年度繰越金	587,720,917
収入の部合計	2,015,348,561

〔支出の部〕

科 目	決算額
1. 経常支出の部	1,009,809,518
小計 I	829,705,134
祭儀費	46,145,429
教化費	18,862,275
教育養成費	34,142,178
図書費	5,801,163
出版刊行費	10,521,541
行事費	42,857,216
負担金	12,013,732
維持管理費	58,639,704
備品修繕費	24,020,387
保守管理費	13,252,181
墓地管理費	3,478,831
保険料	29,541,915
給与手当	236,058,269
雑給与	25,348,842
退職金	585,000
福利厚生費	12,122,350
法定福利費	3,390,243
会議費	5,270,314
消耗品費	18,824,496
器具備品費	13,160,061
リース料	12,068,366
通信費	12,704,588
旅費交通費	15,726,451
自動車諸費	21,730,797
水道光熱費	71,752,400
接待交際費	20,894,859

科 目	決算額
公租公課	708,181
支払利息	198,869
補助金支出	21,518,449
支払手数料	89,316
非課税事業支出	2,653,672
雑費	27,420,559
司祭活動費補助	4,620,000
修道院献金	3,582,500
小計 II（預り金支出）	180,104,384
教区費	118,152,863
神学生養成援助費（封筒）	11,348,487
児童福祉の日献金	2,476,961
世界広報の日献金	2,470,800
聖ペトロ使徒座への献金	2,288,396
世界難民移住移動者の日献金	2,526,686
世界宣教の日献金	2,532,954
宣教地司祭育成の日献金	2,416,782
特別献金	3,780,068
預り金	8,188,085
一葉募金	7,018,297
クリスマス募金	4,329,408
カリタスジャパン募金	9,258,563
その他の募金	3,316,034
2. 財務支出の部	398,106,589
内部借入金返済支出	36,894,000
外部借入金返済支出	4,200,000
土地取得支出	28,462
建物取得支出	24,739,447
構築物購入支出	16,571,951
器具備品購入支出	8,491,858
特別目的預金積立支出	242,198,247
退職積立金	27,128,489
小教区互助基金	26,000,000
教会修理費	11,854,135
3. 次年度繰越金	607,432,454
支出の部合計	2,015,348,561

	2012 年度	2011 年度
世帯数	18,146	18,153
①維持費 / 世帯数 / 月	1,952	1,938
②教区費 / 世帯数 / 月	546	559
③教区費 / 維持費（％）	28	29
④ミサ奉納金 / 世帯数 / 月	822	826
⑤ミサ献金 / 世帯数 / 月	552	534

2013 年 四旬節愛の献金

総額 5, 1 9 0, 8 5 6 円 (7/12 現在)

上記献金の他、直接カリタスジャパンへご送金
いただいている分もあります。皆さまのご支援、
ご協力に心から感謝申し上げます。

カリタスジャパン長崎支部

私たちは昨年、2012年6月8日に日本二十六聖人列聖150周年を祝いました。日本カトリック司教協議会は記念の年を迎えたことを踏まえ、殉教地の長崎・西坂を日本カトリック長崎・西坂巡礼所として承認しました。そして、駐日ローマ教皇庁大使チエノツトゥ大司教様を迎え、西坂で巡礼所の記念銘板の祝福と椿の植樹が行われました。また、5つの関係司教区（京都、大阪、広島、福岡、長崎）は、カトリック「日本二十六聖人長崎への道」ネットワークを立ち上げ、記念事業として巡礼マップの作成を企画しました。今般、そのネットワークを編著者としてカトリック中央協議会からA5版、約200ページにおよぶ『日本二十六聖人長崎への道巡礼マップ』が発行されました。

巡礼マップの特徴は、①日付別のページ組を基本にし、原則1日分を4ページで構成するように組まれています。移動日についての簡単な解説が1ページあり、次の見開きのページで、1日の移動距離とルートを目で分かるように地図上に示し、次のページでルート近隣の教会や史跡などの写真を盛り込んでいます。



教皇フランシスコは6月22日正午（ローマ時間）、札幌教区司教としてベルナルド・勝谷太治神父を任命すると発表しました。勝谷被選司教は、1955年12月2日、北海道室蘭市生まれ、登別教会出身。86年4月29日に司

目印になる交差点や道路標示など、各ポイントを行程順に表記し、それをたどることによって1日の道程を進めるようにしています。二十六聖人に関するこれまでない巡礼マップが発刊されたと思いますので、購入いただき目を通していただければ幸いです。そして、読むだけではなく歩く巡礼に出かける機会が得られれば、聖人たちの思いと労苦、霊的喜びを追体験することができそうです。

巡礼マップの発行は、本カトリック司教協議会推奨のルートとして赤線で示し、ルート近隣の教会や史跡などは地図に所在地のポイントを打ち、表記しています。③京都から西坂まで二十六聖人たちのたどった道程を追体験できるように、できるだけ旧道と思われる道に赤線を入れています。しかし、本来の旧道に手を加え、やがて国道などに代えられたもの、道路工事などで消滅しているものは、安全さを優先し国道などを通るルートにしています。④1日の行程は歩くことを前提にして編纂していますので、出発地から目的地までの

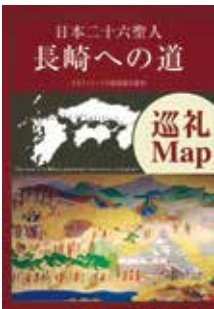
祭叙階。各教会での司牧活動、イタリヤでの研修を経て、2008年から札幌地区長、13年4月から教区事務局長、5月から北一条・北広島両教会の主任を兼務していた。

札幌教区は、09年11月に前教区長の地主敏夫司教の引退が受理されて以来空位となり、新潟教区の菊地功司教が札幌教区管理者を兼任してき

同教区の教区長として6代目となる勝谷被選司教の司教叙階式は、10月14日の予定。

二十六聖人巡礼マップ発行

ネットワーク事務局担当司祭 中村 満



②地図は昭文社製の約10万分の1の地図を主に用い、フルカラーで掲載しています。京都から長崎までの巡礼路は約900キロに及びますが、日本カトリック司教協議会推奨のルートとして赤線で示し、ルート近隣の教会や史跡などは地図に所在地のポイントを打ち、表記しています。③京都から西坂まで二十六聖人たちのたどった道程を追体験できるように、できるだけ旧道と思われる道に赤線を入れています。しかし、本来の旧道に手を加え、やがて国道などに代えられたもの、道路工事などで消滅しているものは、安全さを優先し国道などを通るルートにしています。④1日の行程は歩くことを前提にして編纂していますので、出発地から目的地までの

教区連合婦人会総会

高齢化を見据え組織改革

評議会女性部に名称変更へ



に加えて、若年層が少ないことも明らかになった。これにより、近い将来、会員の減少、活動費の不足も懸念されるため、『婦人会の名称変更を含む組織改革』が発議された。審議の結果、女性の教会活動の重要性をより明白にするために、連合婦人会を評議会女性部と名称変更し、対象者を信徒女性全体にして、評議会の中で活動を展開していくことが承認された。

公開聖書講座

5月25日(土) 13時からカトリックセンター大ホールで、長崎大司教区連合婦人会第18期総会が開催された。
指導司祭大山 繁神父のあいさつの後、各地区から参加した110人余の役員により熱心な審議が行われ、第17期の活動報告、会計報告などが承認された。また、昨年実施されたシノドスのアンケートの結果、会員の高齢化が予想以上に進んでいることが確認された。

再び家庭を振り返る ⑪

教区家庭特別委員会 頭島光

カトリック教会は、未受洗者との結婚を認めている。しかしこの場合、教会の認可がなければ無効とされる。こうした結婚は異宗婚と呼ばれるが、教会は異宗婚を免除することによって、その結婚に立ち会い、祝福してきた。教会は障害免除のため、結婚するカトリック信者に、信仰を守ることを、また与えられる子どもに洗礼を授け、教会の信仰の中で育む最善の努力をすることを求めている。この求めはただ単なる期待をこめてということではなく、できるなら伴侶にも洗礼の恵みをと願うものである。

大槌ボランティア募集

- 9月12日(木)～18日(水) (8/28締切)
- 10月17日(木)～23日(水) (10/2締切)
- 11月14日(木)～20日(水) (10/30締切)
- 12月12日(木)～18日(水) (11/27締切)

申し込みは所属小教区へ。問い合わせは、教区本部事務局(渡辺)まで。

Tel 095-842-4450 Fax 095-842-4460

ファックス番号の変更

以下の2教会のファックス番号が変更されました。電話番号は変更ありません。

- 深堀教会 Fax 095 - 893 - 8030
- 大野教会 Fax 0956 - 59 - 7074

園長研修会と総会

神を体験させる教育を

カトリック長崎大司教区幼稚園協会(会長・頭島光神父)は5月29日、平成25年度第1回園長研修会と総会をカトリックセンターで開き、加盟園から園長ら22人が集まった。午前中の研修会は、「カトリック学校における幼児教育の意義」をテーマに高見三司大司教が講話

長崎レジオの平戸巡礼

聞きながら、紐差・山野両教会を訪

レジオ・マリエ長崎レジオ(村田祐二会長)は6月9日、戸外行事として平戸巡礼を行った。参加者は指導司祭マイケル・ヒルデン神父(城山教会)他57人。
紐差小教区・木ヶ津教会で、ヒルデン神父司式によるミサにあずかった後、ウエルカムガイドの高田久美子さん(平戸小教区所属)による説明を

NYCC 聖人になろう



6月22・23日、8回目となるNYCC(長崎ユースカトリックキャンプ、修道会司祭・修道者召命の集い)が、長崎県立千々石少年自然の家で2日間行われた。『聖人になろう』が今回のテーマ。聖人になる

短 信

〔第10回召命祈願ミサ〕
● 5月31日、大浦天主堂で第10回召命祈願ミサが行われ、高見三司大司教と司祭13人の共同司式のもと、約1200人が共に祈りをささげた。

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

い、分かち合い、交流する場として九州の各教区が毎年持ち回りで開催する九州青年キャンプ(KYC)。

● 今年には長崎教区が担当し、8月24・25日にカトリックセンターで行われる。その準備として6月23日、スタッフの青年らを中心に長崎市内でプレキャンプが開かれ、日程の流れの確認などを行った。

スタッフの1人は、「今回、見直すべき点やスケジュールの最終確認をすることができました。あと約2カ月、精いっぱい力を出し切りしたいと思います。プレキャンプ後、懇親会でいただいた大司教様からの励ましの言葉を胸に、これからの活動に励んでまいりたいと思います」と、キャンプ開催に向けての意気込みを語った。

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

● 6月16日、長崎大医学部記念講堂で「い談長崎の医学の中心で、憲法を語る」が行われた。教区平和推進委員会など主催、日本カトリック正義と平和協議会共催。高見三司大司教による問題提起と、井田洋子氏(長崎大経済学部教授、高田健氏(市民団体「許すな!憲法改悪・市民連絡会」事務局次長、土山秀夫氏(元長崎大学長)がてい

スSASEBO。
● イエズ会立山修道院お知らせ ● 祈りの一日

- ① 8月21日(水) ② 8月24日(土) ③ 9月7日(土) ④ 9月10日(火) ⑤ 9月11日(水) 10時～15時半。※

④ 以外は「聖書ほら会」。

● 祈りの日々 ① 8月24日(土) ② 8月31日(土) ③ 9月1日(日) ④ 9月7日(土) ⑤ 8日(日) 初日17時～翌日15時。

● 大村殉教祭 9月1日(日) 13時、大村市民会館。 ● 教区結婚講座 9月3日(日) 10月4日のうち10時～21時。カトリックセンター。申込先・教区家庭特別委員会。 Tel 095・842・4450

● 福者カミロ・コンスタンツ殉教祭 9月15日(日) 14時、田平町焼罪跡公園。雨天時、田平教会。 ● 聖トマス西と十五殉教者記念ミサ 9月29日(日) 14時、中町教会。

感謝

― 香典返し ―

● 長崎大司教区 ● レンブトリスチン ● 長崎修道院様 ● 故スール・マリー・ルック岩永惇子様

長崎コレジオ

● 長谷崎繁樹様(浦上) ● 故ミカエル長谷崎富蔵様

長崎カトリック神学院 ● 匿名様(浦上)

● 故アンナ森山菊江様 ● 田川シモ様(黒崎)

● 故ドミニコ田川鶴松様 ● 橋口キヨ子様(出津)

● 故ミカエル橋口正義様

右の方々から「寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。」

平和祈願祭 2013-8-9(金)

□たいまつ行列出発式 18時30分 (平和公園) *雨天時、行列中止

□平和祈願ミサ 20時 (浦上教会)

